



## 会の告知版

### 3月30日(日)東久留米稲門会第9回定時総会

会場 成美教育文化会館 ギャラリーホール/大研修室

講演会 14:00~15:20

演題 「反骨の言論人 浮田和民—早稲田大学草創期の巨人—」

講師 栄田卓弘早稲田大学名誉教授・東久留米稲門会顧問

総会 15:30~16:10

懇親会 16:20~

・懇親会会費 5,000円

・年会費 5,000円(含大学125周年記念募金2,000円)

16日(日)臨時役員会 13:30~ 於 中央図書館2階大集会場

### [大学・校友会関係]

入学式 4月1日(学部) 4月2日(大学院)

5月12日(月)~18日(日) オール早稲田文化週間

5月18日(日) 年次稲門会10年祭

5月20日(火) 総長招待"能" 於:大隈講堂ホール



### [部会スケジュール]

太極拳部会 毎週土曜日 10:00~11:30 成美教育文化会館1F  
\*4月5日(土)は野外稽古(花見会を併行) 於 稲荷山公園

俳句部会 3月23日(日)例会 中央公民館 13:30~17:00  
兼題:「東風」と「春の雑詠」

4月20日(日)21日(月)吟行 奥多摩  
国民年金健康保養センター「おくたま路」(青梅市二俣尾)泊

散策山歩き部会 4月6日(日)顔振峠へ観桜会 (詳細別添案内書参照)

書道部会 毎月第2日曜日 13:30~16:00 中央公民館(原則)

囲碁部会 毎月第4日曜日 13:00~16:30 成美教育文化会館

麻雀部会 4月29日(みどりの日)13:30~ (詳細後報)

\*前号にて予告いたしました2月16日は都合により中止いたしました。

グルメ部会 4月 1日(火)第4回グルメ探訪  
—手打ち十割蕎麦と柳瀬川の桜を楽しむ会—  
(詳細別添案内書参照)

ゴルフ部会 5月開催予定 (別途案内)

## 「杜の西北」と「東稲ニュース」の沿革と役割

会長 高橋 勤

東久留米稲門会の機関紙として「杜の西北」の創刊号は当稲門会が設立された年の平成7年9月に発行され、A4判2頁で事務局のコピー機で印刷された急拵えのものでした。編集長は國米家己三氏(31年政経、顧問)で現在もその任にあたっています。ちなみに「杜の西北」のタイトルは國米編集長が考え1号より採用されています。創刊号の内容は設立総会の解説と挨拶の要約が主となっています。紙面で目を引いたのは、当稲門会の女性会員の中心となり活躍することになる5名(菱山さん、柴田さん、石寺さん、山岡さん、八木(旧姓山下)さん)の集合写真であります。また、当会の初めての行事として企画された「古都鎌倉散策の会」に参加した16名の写真が掲載されていることです。2号は4頁でしたが、3号は6頁となりました。ここに「杜の西北」は当稲門会の広報の柱となったのです。編集の基礎ができあがったと思われます。対談、会の年間の事業計画案、活動報告、収支決算書、部会ごとの活動報告、随筆、わが早稲田時代、会員の近況、特別寄稿等々の内容となります。なお、編集委員は2号より女性会員が担当することになりました。

「杜の西北」の特色は一面トップの対談記事であると思います。2号の安宅武一初代会長(28年商)より対談が一面を飾ることとなり、インタビューアーは女性編集員が担当することになりました。3号以降の対談者は榎本隆司本庄高等学院長(当時)、原輝史早大エクステンションセンター所長(当時)、奥島孝康早大前総長、渡辺重範早大副総長兼早稲田実業校長、それに私(第二代当代会長就任時)の6名でした。

これらの対談で特に印象が深かったのは、奥島前総長の発言でした。対談のなかで「この話は初めて公にするのだが」と前置きされて、「革マル主導の早稲田祭は体をはって絶対許さない。大学は30年の間脅迫され暴力をふるわれ、屈辱の日々を過ごした。革マル派と共存するため大学側はどんどん彼らにカネを出した。補助金の一部も彼らに流れ、要するに革マルが早稲田大学を食いものにしたのだ。長年、全然戦おうとしなかった歴代の先輩教授にも大いに不満がある」と語ったことでした。それと、奥島前総長が4号までの「杜の西北」を見て「ほう、素晴らしい会報ですね」とつぶやかれたことが記憶に残っています。この対談の掲載された「杜の西北」を奥島前総長の要望により50部をお贈りいたしました。

「杜の西北」は4号から7号までは8頁建てで発行され、8号では10頁建てとなり、他の稲門会の会報には例がないのではと思われます。本機関紙は東久留米市在住の早稲田大学OB約1000名の校友全員に総会案内と共にお届けしています。これは太田晴之助氏(32年政経、顧問)の提案で2号より実行されています。また本紙は大学と三多摩のすべての稲門会にも発送しています。当稲門会の会員だけでなく内外にむけての情報提供の機関紙なのです。

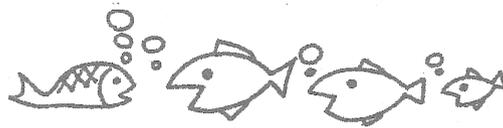
「東稲ニュース」の第1号の発行は平成13年9月1日です。編集長は比護喜一郎氏(37年商、副会長)が担当しています。「東稲ニュース」は設立当初より安宅武一初代会長が編集発行してきた年4回の「東稲通信」(はがき通信)を、装いも新たにしてスタートした全会員を対象とする隔月発行のニュース紙です。会と会員、会員と会員の情報の場として、会から行事のお知らせ、各部会の予定と活動の報告、会員の近況と出来事、会員の随筆、雑学塾の講演の要約、大学の最新情報等々、当稲門会の情報を会員の皆様にリアルタイムに提供するのが役目となります。「東稲ニュース」200部の発行に要する費用はわずか3000円程度です。これは編集長のパソコンによる編集、編集員による原稿収集及び印刷と折り畳み、ポストマン

による配達等々、陰で協力する人達の努力により成り立っています。

一昨年11月に当稲門会の「ホームページ」(責任者松崎博氏 35年理工 幹事)が開設されました。ホームページと「東稲ニュース」は両者一体となり、相互に補完しあって、情報を発信します。ホームページは常時更新ができ、さらに会の活動が活発になり、部会の数もふえてくると、ホームページ/「東稲ニュース」紙面で情報を随時お知らせすれば、会員全員が会の行事、部会活動の状況を知ることができ、個々に連絡し合うことより遥かに経済的、効率的です。

これからも、「社の西北」「東稲ニュース」「ホームページ」の3系統のメディアが当稲門会の情報を発信していくことになるのです。

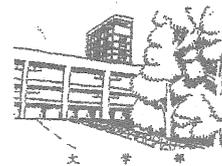
## 会の行事



### 平成15年新年会開催

毎年恒例の新年会が1月18日(日)午後6時から市内の成美教育文化会館で開催されました。真冬の寒い日にもかかわらず54名もの会員の方々に参加され、ビンゴゲームに興じたり、飛び入りの即興の歌を一緒に歌ったりしながら、飲んで食べて大いに語り合い、最後に皆で校歌を斉唱して、約2時間楽しく過ごしました。

## 大学・校友会の行事



### 三多摩稲門連合会会長会

1月19日(日)、午後5時半より三鷹にて、昨年度の主管幹事である武蔵野稲門会と三鷹稲門会により三多摩稲門連合会会長会が開催された。昨年の会長会にてペンディングとなっていた規約改正が主要議題であり、討議の結果以下の事項が承認された。

1. 名称は早稲田大学校友会東京三多摩支部と称する。
2. 三多摩支部を3ブロックに分けて、北部ブロックは従来からの5つの東久留米、清瀬、小平、西東京、東村山各稲門会に、新たに福生稲門会、あきる野稲門会の2つを加える。
3. 主管稲門会は北部ブロック、中部ブロック、南部ブロックの3ブロックの持ち回りとする。
4. 支部長、副支部長若干名、事務局長、幹事(会計監事を含む)の役員を主管稲門会が属するブロックにおいて選出する。任期は1年とする。
5. 大学総長選挙の選挙人資格者は支部長および副支部長1人とする。
6. 東京三多摩支部会長会および支部大会は毎年1回開催することとする。
7. 稲門会総会に参加する各稲門会の祝金は原則として出席者2名まで5,000円とする。

以上、本規約は平成15年4月1日から施行する。

### 都内稲門会幹事長・事務局長会開催

3月7日(金)午後3時開催。帆角事務局長が出席。3月10日スタートする稲門コミュニティ(校友会が提供する、母校と会員の双方向の情報発信および会員間のインターネットを通じ

た通信システム)の概要説明並びに、創立125周年記念事業募金の中間報告と更なる協力要請がなされた。

### 春季代議員会

3月7日(金)午後5時半から大隈講堂で開かれ、帆角/安次峰/山岡各代議員及び安宅賛助代議員が出席。2002年度経常収支決算予想と2003年度経常収支予算が承認され、稲門コミュニティの始動と2003年度稲門祭の開催日(10月19日)などが報告された。

## 部会便り

### 書道部会

武藤部会長は、今年の書道部員の学習目標として、次の四点を挙げました。

第一は、文字の基本点画・運筆(起筆、送筆、収筆)に習熟し実力を涵養すること。

第二は、古典を臨書して、美しい書の技法を知り、鑑賞力を養い、表現力の向上に励むこと。

第三は、臨書から創作へ挑戦すること。昨年より、会長書の見本(行草書の五言漢字)を駆使して練習を重ねているが、継続は力なりで一步一步積み上げて行くしかない。今年は作品展の準備も兼ねて、条幅紙等での宿題も実施する。

第四は、日常頻繁に使用され、愛読もされている実用書を学び乍ら書に親しみ、向上を期すること。

今年は佛教概論とも云われている「般若心経」を楷書で浄書し、經典の内容も学ぶ。(自由課題)。

その他、念願でもあった書道生誕地の中国旅行の件、今年の夏季合宿錬成会の件、作品展の件について、三、四月の例会時に部員に諮って方針を決めることになりました。

(深沢政次記)

### 女性サークル部会

梅の便りを聞く2月8日(土)、当会員榎本幸子さんのお宅で新年会を開きました。14年度の活動報告のあと、次期(15年度)の会長選出、活動プランについて話し合いました。

3月3日の桃の節句には早いのですが、榎本さんの手作りのつるし雛の色彩豊かな華やかさに一同感激しました。掌サイズの端切れで作られたぬいぐるみ(桃の巾着、猿、雀、鶴など)が赤い糸にいくつも連なりぶら下がって、その一つ一つに魔除けや、長寿・お金が貯まる願いがこめられているのです。江戸時代からの風習で、女の子の健やかな成長を願う様子がうかがい知ることができました。それは本当に美しく神々しく輝いて見えました。

平成15年度の女性サークルの部長は吉川明美さん、副部長は榎本幸子さんです。一層のご活躍を期待したいものです。

(部会長 榎野愛子記)



### 俳句部会

俳句を遅く始めて努力も足りないせいか、仲々皆さんに追い付かない。そこで今、私が句会で何時も感心するのは投句のことだ。当日欠席の方から、殆ど毎回投句がある。私の場合、都

合で欠席の時、あっと言う間に当日が過ぎてしまい、投句をしなくて済ませる。昔、学校で休講があると喜んでいてに共通している。授業料は先払いだから、休講があれば損をするのが理屈だが、休講は何か嬉しかったのは恥ずかしながら事実だ。

さて、日経新聞の春秋と言うコラム（朝日新聞の天声人語に当たる）があるが、字数の少ない割に力作が多く、心を打つものがある。字数が少ないと云えば俳句の魅力も似た処がある。つい先日2月22日の春秋にセネカと言う人の言葉「われわれは短い時間を持っているのではなく、実はその多くを浪費している」を引用していた。私も時間を浪費せず、欠席の時は是非、投句をしたいと思う。  
（本間信一記）

○2月16日第45回句会 高得点（4点句以上）句

兼題：「ものの芽」「冬雑詠」 席題：「春雨」

昨夜（ゆべ）の雨ものの芽動く気配あり	坂本信太郎
バーボンの氷ことりと春近し	三田 三（畔巢）
手作りの味噌が自慢ぞ木の芽和え	安宅 武一
鐘樓の屋根に輪廻の草芽吹く	杉本 達夫
面映ゆし譲らる席の冬日かな	高塩 和己
春の雨江戸紫の蛇の目傘	大川 洋子（浩仙）



#### 太極拳部会

花見会に向かって「百花拳」型の猛稽古？

厳しかった冬の寒さもどうやら峠を越して、西高東低・三寒四温の繰り返し、桜の開花予想が待ち遠しい時期になってきました。部会の稽古では今、昨年に果たせなかった桜樹の下での「花見太極拳」として、花びらの舞に似た「百花拳」と称する型を演舞しようと挑戦しています。

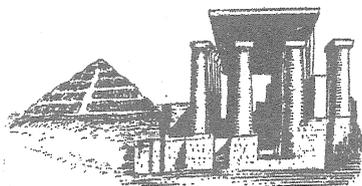
「百花拳」型とは、円陣を組みながら前後左右に移動して、種蒔きをしながら沢山の花が咲き誇るまでの課程を表現した華麗なものです。二十四式の9番目の型「単鞭」から始まり、24番目の型「収勢」で締め括る演舞方法です。花見会では美酒を酌み交わしながら、見事な花を咲かせたいと思いますが、さて当日、どんな花が咲き乱れるでしょうか楽しみですか？

部会員に限らず「花見会」には、どなたでも自由に参加して下さい。（部会長 船尾和三記）

#### <会員リレーエッセイ>

### 噴水広場

エジプトを訪ねて



川俣 栄一（28年理工）

去る睦月、約10日間のエジプト旅行を楽しんだ。四大文明の一つエジプトは、聞きしに勝る素晴らしいものであった。

成田からロンドン経由で入国したカイロのホテルの窓からは、夕日に映えた黄昏のピラミッドが、いきなり顔を望かせていた。身はまさしくエジプトにあることを実感した。

翌日はまず、最古のピラミッドとして知られる古王国時代（2650～2180BC）の

ジュセル王による階段ピラミッド(サッカラ)及びスネフェル王による屈折ピラミッドと赤ピラミッド(いずれもダハシュール)を見学した。午後はギザの砂漠に聳える三大ピラミッドを観光。三基のうち最大なクフ王のピラミッドに登り、内部構造を観察することができた。

古代ギリシャの歴史家ヘロドトスは2500年前、「このピラミッドは、10万人の奴隷が20年かかって造ったクフ王の墓である」との記録を残した。しかし最近、ワークマン・ヒビレッチで出土した人骨の調査で、高度な医療手術が施されていたことが実証されたことからピラミッドを造った人々は奴隷ではないことがわかった。

毎年定期的にナイル河が氾濫すると、農地は約4ヶ月以上泥水に覆われるので農業はできない。この期に王は農民にピラミッドを造らせ給料を払う。つまりピラミッド建設は奴隷の苦役ではなく、公共事業であったのだ。古代社会の経済が再分配と互惠の原理によっていたことは驚くべきことである。

3日目の早朝、空路ルクソールへ飛びナイル河東岸のカルナック神殿とルクソール神殿を見学した。ヒクソスという初の異民族侵入以来、ルクソールは地理的事柄の重要度が高まり、ついには新王国時代(1565~1070BC)の首都になった。この期がエジプト史上の最盛期である。

カルナック神殿は万物の父アモン神の厚い信仰を受け、歴代のファラオ達は戦勝の度に神殿の増改築を繰り返した。この広大にして荘厳な神殿で、落日とともに行われた「音と光のショー」は、古代王朝の幻想的な世界を彷彿させてくれた。

4日目の午後は、ナイル河西岸の王家の谷、王妃の谷、ハトシェプスト葬祭殿を見学した。午後、クルーズ船に乗船、ルクソールをあとに一路ナイル河を南下した。西空を茜色に染めてナイル河畔に沈みゆく夕日を遠望する光景はまたとなく美しかった。夜の船内では民族衣装に身を包み、飲んで踊り陣を組んではゲームをする「ガラベヤ」を楽しんだ。

5日目はナイル河をクルーズで進み流域に点在する遺跡に立ち寄って観光した。

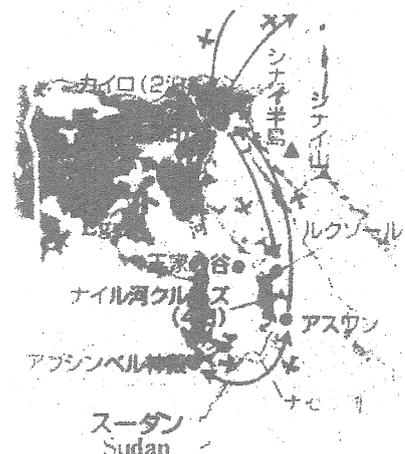
6日目の朝、船はアスワンに到着し、アスワンハイダムを観光し古の石切場を見学、ハトシェプスト王妃に捧げられる予定だったという「未完成オベリスク」(長さ41mの一枚岩花崗岩)が印象的であった。

7日目の朝、クルーズ船と別れ、空路アブシンベル大・小神殿を見学した。大神殿は建造者ラムセス二世の栄光を誇示したもので、小神殿は王妃に与えた。見学後、空路カイロへ。

8日目の午前、エジプトの歴史の集大成として、考古学博物館を見学した。午後、アズハル・モスクを見学後、ハンハリーバザールでショッピングを楽しみ、翌日帰国の途へ。

短い旅ではあったが、文明発祥の地エジプトを訪ねて、7千年という悠久の流れのなか、人間が生み出した英知の結晶と偉業の数々は、今もなお限りなく古代文明へのロマンを掻き立て、比類なき感動を覚えた。

またこの度は、海外旅行を好んだ亡き妻の最後の訪問地エジプトにおける足跡を辿ることができたことは幸いであった。



旅行コース



## 東久留米雑学塾一第8回講演要約



2月2日(日)中央公民館で大会主催の第8回雑学塾が開催された。講師は当会会員(23年商)で、現在TAMA市民塾、都生涯学習スポーツ部やNHK学園などの講師を務め、フリージャーナリストとして多方面で活躍されている竹村鉄郎氏。演題は「山と酒を愛した牧水と山頭火」。日本で一番歌碑、句碑の多い若山牧水と種田山頭火についてその人気の秘密や詩歌の説明を全国にわたる二人の足跡などを辿りながら語っていただいた。底冷えのする天候にもかかわらず40数名の方々が出席され、熱心に聴き入った。以下は講演のさわりです。講演録は追って発刊いたします。(帆角)

### 「山と酒を愛した牧水と山頭火」

竹村 鉄郎

現在我が国で最も愛されている歌人は若山牧水であり、俳人は種田山頭火です。二人がなぜ愛され親しまれているのか、以下その作品や人となりなど、共通する事柄についてお話しします。

牧水の最も親しまれている歌は、“幾山河越えさりゆかば寂しさの果てなん国ぞ今日も旅行く”であり、山頭火のは、“分け入っても分け入っても青い山”です。牧水がこの歌を作ったのは22歳、早稲田の学生で夏休みに宮崎県へ帰省の途中、岡山県から広島県へ越える二本松峠の熊谷茶屋に泊まり、詠んだものです。一方、山頭火の最も有名な俳句“分け入っても分け入っても青い山”は、44歳のとき熊本県から宮崎県へ抜ける九州山脈の中で詠んだものです。かつて中道に倒れた小淵元総理が、山積する政治課題を解決するとき、この句を引用していたことが思い出されます。若山牧水、種田山頭火、ともに雅号に山を織り込んでいます。牧水の場合、若いときは若山雨山と言っていましたが、さすがに山が重なり過ぎるといってもあつてか、母親マキさんの音を採って、牧水にしました。また、二人は酒をこよなく愛し、牧水は小諸滞在中の記録によりますと、朝3合、昼4合、夜6合を呑んだとあります。山頭火の場合はもっと呑みましたが、幸か不幸かお金がないため自然に休肝日が続き、牧水より16年も長く生きました。牧水の歌碑が現在300基あります。昭和50年(1975年)で線を引いてみますと、それ以前は74基です。つまり50年以降の歌碑が226と圧倒的に多く、人気の高まりを示しています。ちなみに、人気の高い石川啄木の歌碑は100基ほどと言われています。山頭火の場合はもっと極端で、昭和50年以前は僅か17基でしたが、現在は500基以上と推定されています。

### 東稲広報室



○早稲田大学野球部(部長 片岡寛光)より今春のリーグ戦運営のための寄付金のお願いがきております。

寄付金一口 五千元につき、特別入場証 一枚(特別内野席・全試合有効)の贈呈

寄付金一口 壹万円につき、特別招待証 一枚(特別指定席・全試合有効)の贈呈

ご協力される方は、事前に下記へ電話、FAX, E-mail, 手紙いずれかにて連絡して

下さい。

〒202-0021 東京都西東京市東伏見3-5-25 安部寮

TEL&FAX: 0424(68)6755

E-mail: wasedabaseball@livedoor.com

担当マネージャー: 松尾、宮田

**訃報** 2月2日 小林俊彦氏(34年法・修 南沢)がご逝去されました。氏は法曹界に長年従事する傍ら、俳人協会に属し自ら「波濤」を主宰、俳界でも活躍されていました。謹んでご冥福をお祈り致します。



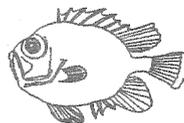
## 会員の声

### <能楽鑑賞記>

菱山 房子

わずか三間四方の檜舞台にあらゆる人間模様と森羅万象さえ静かに深く表現する能楽とはなんと素晴らしい芸能だろうか。

2月1日、国立能楽堂に凜と冴えた鼓の音が響くと、観客席の私は思わず居住まいを正した。この日、当会会員竹山信保さんご長男竹山悠樹さんが若手狂言師として出演されていた。演目は平家物語の中でも有名な「屋島」(観世流)一浦人役(間狂言)として、狂言「因幡堂」(和泉流)一夫婦の妻役として「葛城」(金春流)で、悠樹氏は前半の二つに出演され立派な舞台を務められた。私は一昨年、同じ若手能の新春公演を観世能楽堂で鑑賞させていただいたが、まだ少年の初舞台のように初々しく、澄んだ高くふるえるような科白の声のけなげさに心を熱くした。此度は青年らしく若々しさに溢れ別人かと思うほどその成長ぶりに驚いた。因幡堂では夫婦役の妻は滑稽で愉快、その上艶やかで、この日唯一回そのおかしさに堂内いっぱい上品な笑いの渦が広がった。6歳の入門以来、仕来りの厳しい能楽の世界で精進されてきた現代っ子の竹山悠樹さんに、今回の舞台を見るにつけ、ご両親のお慶びはさこそと思う。私も、若手能楽師として今後大いに期待を寄せ、改めて心から拍手を送る。



### <私のレシピ>

河村 洋子

料理メモ①: (長芋の磯辺揚げ) 普通のとはちがってとても簡単です。長芋を4~5センチの拍子木切りにします。それに適当な幅に切った海苔を帯状に巻き付けて中温の油でさっと揚げます。お好みの調味料でいただきます。

料理メモ②: (セロリとちりめんじゃこの炒めもの) セロリを数ミリの小口切りにし、フライパンで炒め、火が通ったらちりめんじゃこを入れてお醤油、みりんで調味します。お酒、ご飯どちらにも合います。

[編集後記] ○桃の節句、3日に昨年より12日も早い春一番が訪れた。それも東京では風速20mを超える激しいものだった。自然の営みは正しく変転して、またうらかな春を迎えたが、人間社会の寒冷前線は停滞しっぱなしで一向に動く気配がない。「大学は出たけれど...」。卒業期のこの時期、この悲痛な声が再び後輩達から聞こえてくるようだ。不穏な世相、不況な経済状況を吹っ飛ばす突風が人間社会にも吹かないものか。○文化活動、福祉活動、ボランティア活動など多方面で、多くの会員や家族の皆様が活躍されています。本紙を活用して広く告知したいと思います。会員皆様の短信をお寄せ下さい。